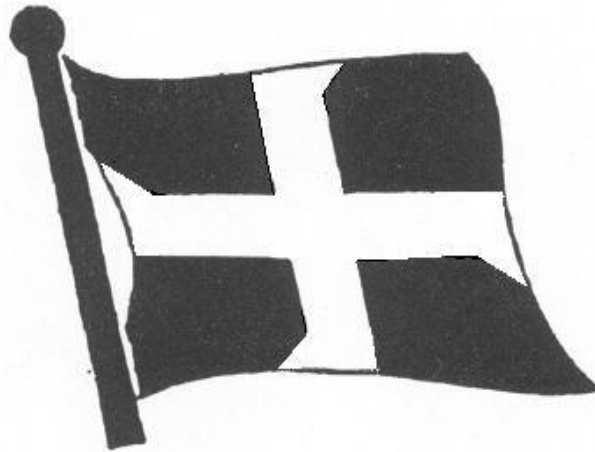


# 蒼穹ニユース

# No. 2

## 関西インカレ総括号

平成 22 年 5 月 25 日発行



### ~~~~ 目 次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新 入 部 員 紹 介

## 主将挨拶

先日行われました関西インカレにおいて、京都大学は事前の予想を上回る 91 点を獲得いたしましたが、2部で3位に終わり、目標にしていた1部昇格を果たすことはできませんでした。1回生からD3まで全学年が出場し、まさに総力戦となった今大会において、数多くの自己ベストが生まれ、我々の持っている力を出し切ることができたと感じております。とはいえ上位2校との力の差は大きく、来年1部昇格を果たすためには各人のさらなる努力が不可欠であることを認識する試合となりました。

しかし、4×100mRの優勝、200mで吉田(4)の戴冠、そして800mで大川(3)、やり投で林(3)が入賞を果たすなど、好材料も多くあります。さらに、有望な新入生も加入し、今年こそ悲願ともいえる七大戦の優勝を勝ち取ることができるよう、努力を重ねていきたいと思っています。

最後にはなりましたが、平日が日程の大半を占める中、数多くの蒼穹会の皆様に、応援のために会場に足を運んでいただいたことに心から感謝いたします。今後とも、ご支援、ご声援のほどよろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部主将

小山 俊之

## 監督挨拶

5月6日のハーフマラソンから始まった関西インカレも終りに閉会しました。この5日間、出場する選手はもちろん、応援も審判に入った部員もマネージャーも全員が一部昇格を目指して力を尽くしましたが、目標としていた今大会での一部昇格は叶いませんでした。

チームとして戦う以上、そして勝利こそが我々の目標である以上、その目標が達成できなければ意味がありません。今大会、小山俊(4)や吉田(4)らの活躍、400mRの優勝や多くの自己ベスト更新など、チーム全体として実力を発揮できていたにも関わらず、それが勝利につながらなかったのは監督である私の責任です。特に昨今の課題であるフィールドを中心とした弱点種目の強化や選手の獲得に十分に手を尽くせなかったのは大変悔まれます。また、故障や不調を抱え実力を発揮できなかった選手、あと一步のところ得点を逃した選手など、悔しい思いをした選手も少なからずいます。そして、部内での選考に漏れ、出場できなかった選手も多くいます。

一人一人の部員にとっても、京大陸上部全体にとっても、この大会は新たなスタート地点となるわけで、我々は再び歩みを進めることとなります。女子部も含め、まだこのチームは成長段階にあり、可能性を秘めています。まずは七大戦、秋の東大戦と昨年果たせなかった総合優勝を目指し、部員一同精進していく所存です。そして、一年後の関西インカレで一部昇格を果たすことができるように、精一杯取り組んでまいります。

本大会にも多くの先輩方に競技場に駆けつけていただき、大変感謝をいたしております。今後とも、御支援・御声援のほど、よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部監督

平子 達也

## 第87回関西学生陸上競技対校選手権大会

### 男子2部総合成績 (上位8校のみ)

1位	摂南大	139点
2位	びわスポ大	136点
3位	京都大	91点
4位	大阪経済大	69点
5位	神戸大	57点
6位	大阪府立大	50.5点
7位	大阪産業大	40点
8位	甲南大	34点

### 男子2部トラックの部

1位	びわスポ大	81点
2位	京都大	76点
3位	大阪経済大	69点

### 男子2部フィールドの部

1位	摂南大	76点
2位	びわスポ大	39点
3位	和歌山大	32.5点
9位	京都大	13点

### 男子2部混成の部

1位	びわスポ大	16点
2位	大阪産業大	8点
3位	摂南大	6点
5位	京都大	2点

### 男子1部総合成績

1位	立命館大	171点
2位	関西学院大	133点
3位	京都産業大	125点
4位	関西大	87.5点
5位	大阪体育大	87点
6位	天理大	52.5点
7位	龍谷大	41点
8位	近畿大	35点
9位	同志社大	34点
10位	京都教育大	29点
11位	大阪教育大	23.5点
12位	大阪大	18.5点

### 女子総合成績

1位	立命館大	114点
2位	大阪体育大	87.92点
3位	関西大	85.42点

## 関西インカレ詳細

### 第1日目 5月6日(土) 長居公園周回

1位	荒川 凱斗	大阪経済大2	1:10:08
2位	小山 俊之	京都大4	1:11:39
3位	森岡 秀一	大阪経済大3	1:11:57
6位	櫻井 研吾	京都大M1	1:13:14
12位	宇部 達	京都大D3	1:17:00

### ハーフマラソン決勝

前日までの予報を裏切り、例年通り暑さの厳しい中でのレースとなった。序盤、小山俊は先頭集団、宇部、櫻井は8位集団につける。10km手前暑さの影響もあり宇部は集団から離され苦しい展開となる。櫻井は順調にレースを進める。15km過ぎ小山俊は1部を含めた先頭集団から離され単独の2位となる。櫻井は後半徐々に順位を上げ一時は5位まで浮上する。最終的に小山俊は2位を死守、櫻井は1つ順位を下げるも6位、宇部も苦しいながらも最後まで走り抜き12位でのゴールとなった。出だしの種目で10点を獲得し、1部昇格に向けて幸先のいいレースとなった。

(山田唯)

### 対校得点(1日目終了時点)

1位	大阪経済大	18点
2位	京都大	10点
3位	佛教大	5点
4位	甲南大	2点
5位	成美大	1点

### 第2日目 5月14日(金)

#### 長居第2陸上競技場

### 女子100m予選(6組2着+4)

富田 夏希(M1) 1組5着 13.56(+1.4)

女子の先陣をきった富田。2週間前の記録会で軽く肉離れを起こしており、満身に調整もできず、怪我をおしての苦しい戦いとなった。アップの段

階から左足を気にしており、スタート時もやはり怪我が気になるのか出遅れてしまった。そこから追い上げようと頑張ったものの、結果は満足いくものとはならなかった。しかし最後まで懸命に走り抜いたその力強い走りは、京大のみなに良い刺激を与えたに違いない。(堀田)

### 100m予選(7組3着+3)

吉田 繁治(4) 6組1着通過 11.00(-0.1)  
眞武 俊輔(2) 3組2着通過 11.15(+0.3)  
秋元 一志(3) 5組4着通過 11.27(+0.0)

5月にしては少し肌寒い気候の中行われた男子100m予選。吉田は研究室が忙しく練習不足が心配されたが、その不安を感じさせない走りで予選を通過した。秋元は惜しくも3着に入れなかったもののプラスで拾われ、予選を通過することが出来た。眞武は中盤で一瞬脚がつかい、動きが崩れたがなんとか持ち直し2着で予選を通過した。3人とも予選を通過したことで、チームに勢いを付けてくれた。(不破)

### 女子800m予選(6組3着+6)

岩橋 優(2) 2組3着通過 2.19.49

昨シーズン蒼穹記録の鮮烈なデビューを飾った岩橋だが、冬季練習から怪我が悩まされ十分な練習が積めていないことが心配される中、今期初の対抗戦でのレースとなった。オープンレーンから東大阪大の選手が1人飛び出すのが冷静に第2集団を引っ張り、400mを68秒で通過した。600m周辺で第二集団の先頭を譲るも、上手くインコースを走り体力を温存した。700m手前から2、3、4位と競り合うも勝負強さを発揮し2位と僅差で3着に入り予選通過を決めた。(中東)

### 800m予選(5組2着+6)

佐藤 翔士(M2) 1組1着通過 1.59.36  
大川 亮(3) 5組1着通過 1.59.44  
水元 惟暁(2) 3組2着通過 1.59.62

少々肌寒い気候の中、男子800m予選が行われた。佐藤はスタートから400m通過までは様子を伺い、慎重にレースを進めた。バックストレートで一度先頭に立つと、そのまま好位置をキープしたまま予選を通過した。水元も前半はやや自重し

て入った。450 から 500m 辺りで一度後ろに下がってしまったが、バックストレートで 2 位に浮上すると、そのまま余裕をもってゴールした。大川は最後まで少々後ろにポケットされていたが、最後の直線で一気に先頭に立ち、その勢いを保ったまま悠々とゴールした。京大中距離の地力を他大学に十分知らしめてくれたレースだった。(神埜)

### 100m 準決勝 (3 組 2 着+2)

吉田 繁治(4)	2 組 2 着通過	10.81 (+2.0)
眞武 俊輔(2)	1 組 3 着	11.05 (-0.3)
秋元 一志(3)	3 組 7 着	11.13 (+1.6)

男子 100m 準決勝には、吉田・秋元・眞武の 3 人とも進出した。秋元と眞武は大きな失敗もなくベストに近い走りをしたが、惜しくも決勝進出を逃してしまった。吉田はわずかにスタートで立ち遅れたように見えたが、10 秒台の走りを見せ、組 2 着で決勝進出を決めた。(橋本)

### 女子 400m 予選 (6 組 2 着+4)

釜谷美翔子(1)	6 組 6 着	62.12 ♪⑥
加奈山憲代(2)	2 組 6 着	62.84

少し肌寒い中のレースとなった、女子 400m 予選には加奈山と新人の釜谷が登場。加奈山はハイペースのレースに中位以上に絡むことはできなかったが、ベストに近い力走だった。釜谷も自己記録からは遅れたが、終盤にかけて粘りのある走りを見せた。このレースを今後につなげてもらいたい。(四辻)

### 400m 予選 (4 組 3 着+4)

萩生 翔大(4)	3 組 1 着通過	50.32
----------	-----------	-------

スタートからテンポの良い走りで加速し、中盤はリラックスした走り、終盤はやや競ったが昨シーズンの課題であった力みもなくまさに教科書通りの走りで見事 組 1 着でゴールし準決勝進出を決めた。記録は 50" 32 で、今季はまだ出していない 49 秒台は今回もお預けとなったが、まだ予選で余力も充分にあるようなので明日以降の走りに大いに期待したい。(桐山)

### 女子 800m 準決勝 (3 組 2 着+2)

岩橋 優(2)	2 組 6 着	2.19.97
---------	---------	---------

今日二本目となる準決勝、前半は果敢に前に出て一周目を 68 秒で通過。500m 付近で後続勢に追い上げられ惜しくも決勝進出とはならなかったが、怪我明けの中でも次に繋がる積極的なレースを見せてくれた。(内田)

### 800m 準決勝 (2 組 3 着+2)

佐藤 翔士(M2)	1 組 2 着通過	1.57.52
大川 亮(3)	2 組 2 着通過	1.58.15
水元 惟暁(2)	2 組 4 着	1.59.07

今、京大で最も勢いがあると言っても過言ではない中距離陣の 3 人が準決勝に出場した。1 組目の佐藤は前半は冷静に周囲を見つつ集団の中盤につき、普段通りラスト 100m の驚異的な切り替えで逃げ切り決勝進出を決めた。2 組目には大川、水元が出場した。大川はびわすポ大の選手の後ろに付き、バックストレートのペース変化にも上手く対応し、佐藤と同じく決勝へと駒を進めた。水元は格上の選手達に果敢に食らい付き、ラストも粘りの走りを見せてくれた。惜しくも決勝には進めなかったが、得たものは大きかったと思うのでこれからの更なる成長に期待したい。(宿利)

### 4 × 100mR 予選 (4 組 1 着+4)

牧川真央 - 吉田繁治 - 秋元一志 - 眞武俊輔	4 組 1 着通過	42.14
---------------------------	-----------	-------

新オーダーで臨んだこのレースは個々の走力は申し分無いがバトンパスにやや不安を抱えていた。1 走の牧川が良い加速を見せぐんぐん前との差を詰めるも 1、2 走のバトンで大きくロスしてしまう。しかし吉田が必死に追い上げ秋元につなぎ、絶妙なコーナーワークで先頭にたつ。3、4 走のバトンもつまったが眞武が逃げ切り組 1 着でゴール。タイムは全体で 2 番目だったがバトンパスに課題が残るレースであった。決勝ではこの課題を克服し、ぜひとも優勝を勝ち取ってほしい。(藤澤)

## ハンマー投決勝

1位	黒川 篤 (和歌山大 M2)	50.40
2位	七条 敏和 (太成学院大 4)	48.66
3位	内藤 克己 (和歌山大 1)	46.73
7位	田中 聡一 (京都大 D2)	41.95
16位	高橋源一郎 (京都大 3)	26.58

田中 [40.90-×-41.95-41.28-40.57-40.73]

高橋 [26.58-×-×]

田中はアップの段階で体重移動の感覚のズレに苦しんでいたが、1投目の40mから微調整を重ね、3投目は綺麗に力を加えることができ41m95を投げる。ベスト8に入って試合のテンポが速まり、集中することが難しい状況となったにも関わらず、41m付近に着実に落とす老練な試合運びをしてみせ、7位入賞を果たした。高橋は、試技1,2では、少し加速しすぎたせいか3ターン目で崩れてしまっていた。が、そのまま終わるわけではなく3投目には上手くターンを修正してきた。投擲方向を合わせきれずファールになってしまったものの、初速があり今後に期待をもたせる投擲で試技を締めくくった。(林)

## 十種競技(前半)

三浦 裕介 (M2) 2836点  
[100m 11.93 (+0.8) (665)-LJ5.94 (+0.8) (574)  
SP9.59 (461)-HJ1.75 (585)-400m 56.22 (551)]

太陽が陰り少し肌寒い気候のなか、男子10種競技の最初の種目、100mの幕が明けた。三浦はスタートを決め、久しぶりの11秒台をマークし、上々の滑り出しを見せた。また走幅跳では踏切板の手前で踏み切りながらも5m94でまとめ、砲丸投もまずまずの記録を残した。得意の走高跳では、満足の跳躍が出来ないなかでも、全体で4位という記録であった。最後の400mは少し疲れが出たが、ラストには粘りを見せた。一日目は大きな失敗もなく、2日目の追撃を期待させる一日となった。(浅井)

## 対校得点(2日目終了時点)

1位	和歌山大	19点
2位	大阪経済大	18点
3位	京都大	12点

第3日目 5月15日(土)

長居第2陸上競技場

## 400m 準決勝(2組3着+2)

萩生 翔大(4) 2組4着 50.57

本調子ではなかったようだが、予選は危なげなく突破した萩生。しかし準決勝ではスタート直後から走りがかたく、バックストレートに入るまでにスピードが上がりきれていなかった。バックでも普段と違い無理にスピードを上げようとして無駄な力を使っていた。その結果、後半も大きく失速し決勝進出を逃してしまった。短長のエースとして背負うものが大きく、対抗戦では相当なプレッシャーがかかっているだろうが、今後の対抗戦は目標のとおり純粋にかけっこを楽しんでほしいと思う。(橋本)

## 5000m 決勝

優勝	小山 俊之(京都大 4)	14.31.49PB②
2位	宮永 大亮(大阪経済大 4)	14.34.09
3位	山西 大貴(神戸大 4)	14.36.33
10位	山田 唯(京都大 4)	15.10.30
13位	田中 裕介(京都大 M3)	15.15.09

太陽がさんさんと照り付ける中5000mに出場するのは田中裕介、小山俊之、山田唯の3人。序盤、小山は先頭集団で冷静に様子を見る。山田、田中は共に集団真ん中でレースを進める。2000を通過して山田が離れそうになるものの、素晴らしい粘りを見せる。田中も苦しくなってきたからの驚異の粘りを見せた。レースが動いたのは3000過ぎ。小山が先頭に出るものの大経大の選手がそれについていき小山は引っ張られる形に。しかし、ラストは小山の素晴らしいスパートで大きく引き離し、ベストを5秒更新して見事優勝を飾った。山田と田中も最後まで、粘りと攻めのレースを見せてくれたが惜しくも入賞圏内には届かなかった。しかし今大会4種目に出場する小山の走りは京大にはもちろん、自分自身にも大きな勢いをもたらすレースとなったに違いない。(毛芝)

## 800m 決勝

1位	横津 琢磨 (びわ学大2)	1.51.61
2位	佐治 祐貴 (びわスポ大4)	1.52.47
3位	浅野 駿介 (摂南大2)	1.53.56
4位	佐藤 翔士 (京大M2)	1.53.62 PB⑩
5位	大川 亮 (京大3)	1.55.36

男子800m決勝には、佐藤と大川の2人が進出した。今シーズン、佐藤は400mで、大川は800mで自己ベストを更新しており、注目のレースであった。レースは序盤から1部のレースに引けを取らない速い展開で京大の2人は第2集団を走ることになる。400mの通過は55秒。そこから2人とも粘りの走りを見せる。ラスト300m付近から佐藤がスパートをかけてベストをマークしての4位。大川も、ラストは苦しそうであったが、なんとか踏ん張って5位に入った。(塚本)



京大中距離の強さを見せてくれた  
佐藤(右)と大川(左)

## 100m 決勝(+0.5)

1位	鎌田 英明 (大阪産業大4)	10.80
2位	塩山 昌弘 (びわスポ大2)	10.86
3位	榎 祐季 (摂南大4)	10.88
5位	吉田 繁治 (京大4)	10.98

晴天で日差しの強い中行われた100m決勝のレース。吉田はスタートでやや出遅れるものの、中盤でスピードに乗り激しい競り合いの末、5着でフィニッシュ。10"98でのゴールであった。前日との気温差もある中でのレースで走りづらいコンディションであったものの5着という結果であったので、今年で最後となる七大戦、東大戦でのさらなる活躍が期待される。(近藤)

## 10000mW 決勝

1位	丸尾 知司 (びわスポ大1)	44.46.93
2位	石飛 雅基 (神戸大3)	44.47.57
3位	内田 恵治 (びわスポ大3)	45.28.12
8位	中村 幸平 (京大M1)	48.59.65 ④
9位	生谷 隆磨 (京大4)	51.02.21PB⑤
	永田 和寛 (京大2)	DSQ

3人とも慎重な出だしを切った。今年から院生として京大にやってきた中村と生谷は攻めの姿勢で順位をあげていく。はじめは入賞圏内ではなかった2人だが上位の選手が1人失格となり1つずつ順位を上げ、中村は入賞することができた。最後まであきらめることなく歩いた生谷は終盤で中村との差を縮め、自己ベストを更新してゴールした。一方、今回の目標に「完歩」を掲げる永田は慎重なレース展開を繰り広げる。中村の指導を受け動きが改善されてきていた永田であったが無念の失格となってしまった。(高田)

## 4×100mR 決勝

優勝	京大	41.78
	[牧川真央-吉田繁治-秋元一志-眞武俊輔]	
2位	摂南大	41.89
3位	甲南大	42.04

一走の牧川は、新入生であり体力も戻り切らない中での大舞台。しかし、スタートを切るとアウトレーンの走者を抜く快走を見せる。2走の吉田とのバトンが上手く渡る。多忙の中での大会であったが、その後の走りはやはり貫禄のあるものであった。3走の秋元は、この春にベストを更新している。一段と成長した走りを皆に見せ付けた。混戦の中アンカーの眞武にバトンが渡る。その中でも頭一つ抜け、粘り強い走りを最後まで切らさなかった。この優勝が京大に大きな勢いをもたらしたことは言うまでもない。(川室)





見事優勝を飾った男子四継メンバー

り切り、総合7位を勝ち取った。2日間の必死の競技は京大に大きな2点をもたらした。(清水)

### 十種競技(総合)

1位	濱田 祐輔 (大阪産業大 3)	6784 点
2位	森本 隆太 (びわスポ大 3)	6390 点
3位	森田 晃弘 (摂南大 4)	6268 点
7位	三浦 裕介 (京都大 M2)	5420 点

### 対校得点(3日目終了時点)

1位	びわスポ大	60 点
2位	摂南大	48 点
3位	京都大	44 点

### 三段跳決勝

1位	今井 俊彰 (大阪市立大 M1)	15.23(+0.8)
2位	山中 敬雄 (大阪府立大 2)	14.60(+0.7)
3位	油谷 涼 (神戸学院大 4)	14.58(+1.3)
11位	秋山 源 (京都大 5)	13.62(+0.0)
	秋山[×-13.62-×]	

穏やかな風の中、気温が次第に高くなる中で男子三段跳が行われた。出場した秋山は踏み切り板が13m板の中、1本目から物怖じせぬ跳躍で砂場に着地したものの、ファールとなった。しかし2本目では踏み切りが上手く合い、13m62を跳んだ。ベスト更新も期待される中、跳んだ3本目は惜しくも1本目と同じように板を数cm超えてしまい、ファールとなってしまった。入賞ラインには届かなかったものの、これからの跳躍種目に勢いを付ける跳躍であった。(飯村)

### 十種競技(後半)

三浦 裕介(M2) 2584点  
 [110mH 16.95(+0.1) (629)-DT27.17 (409)-PV3.80 (562)-JT39.48 (435)-1500m 5.01.81 (549)]

美しい青空の下、3日目最初のレースとなる110mHに登場した三浦。スタートで出遅れたが、中盤からの粘りで、まずまずの記録を残す。次の円盤投げでは記録が伸びなかったが、棒高跳びではしっかりいいパフォーマンスを見せた。続くやり投も自己ベストに迫る力投で次につなげた。そして最終1500m。疲れのある中、力強い走り

第4日目 5月20日(木)

西京極陸上競技場

### 110mH 予選(3組2着+2)

前田 靖朋(4) 3組5着 17.07(-0.1)

雨上がりの朝で少し冷えていたがほぼ無風という条件の下行われた110mH予選。靖朋は出だしから加速がかなり良く、記録も期待できたが、3台目のハードルで足を引っ掛けてバランスを崩し、かなりロスしてしまった。すぐに体制を立て直し、1人追い抜くも組5着。苦しい展開になり実力を出し切れず結果は悔しいものとなったがこの経験を次に活かしてほしい。(眞武)

### 女子 1500m 予選(3組3着+3)

岩橋 優(2) 2組6着 4.39.23 **蒼穹新**

岩橋は800mに続き関西インカレ2種目目の出場である。昨日からの雨は止み、蒸し暑くなる中女子1500m競走の号砲が響いた。岩橋は先頭集団の中盤に位置を取り400mは72秒で通過した。800m付近から先頭4人との差が開き始め第2集団でレースを運び、そのままラスト400mに突入した。6位を射程圏内に捉えたままラスト100mでスパートをかけ僅差でゴールをした。惜しくも6着となり決勝進出を逃すも、ベストにあと1.2秒と迫る好タイムであった。(中東)

## 1500m 予選 (3組 3着+3)

小山 俊之(4)	1組 1着通過	4.00.75
坂本 剛(4)	3組 4着	4.04.77
小山 裕之(M1)	2組 12着	4.13.69

男子 1500m 予選には長距離から 3 人が出場。1 組に登場したのは小山俊之。序盤は集団の中に控え、ラスト 1 周は後続を窺う余裕を見せながら順当に一着通過した。2 組の小山裕之は怪我による出遅れが響き、中盤以降徐々に先頭から離されて悔しさの残るレースとなった。3 組目は坂本。スローな展開の中、好位置でレースを進めるが、スパート合戦で出遅れ、最後の直線で猛追するも僅かに及ばず決勝進出を逃した。(河本)

## 200m 予選 (5組 2着+6)

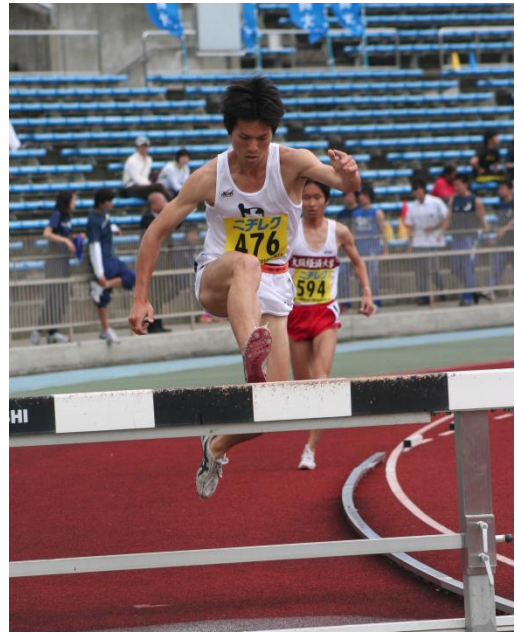
吉田 繁治(4)	3組 1着通過	21.94(-0.3)
----------	---------	-------------

早朝の雨天とはうって変わって、晴天の中 200m 予選が始まった。フライング発失格という緊張感の中、吉田は号砲とともに絶妙なスタートを切る。コーナーの中盤で早くも前の選手を捉え、そして直線に入ると神大の選手以外を大きく突き放し、ラストはフォームが若干崩れながらも粘りの走りをみせトップでフィニッシュ、準決勝進出を決めた。向かい風の中ベストを更新するという、まさに貫禄の走りであった。(宿利)

## 3000mSC 決勝

1位	木村 哲也 (大阪経済大 4)	9.13.57
2位	山田 唯 (京都大 4)	9.16.20 PB⑤
3位	富山 恭平 (大阪経済大 1)	9.21.54
6位	近藤 学宏 (京都大 M2)	9.27.69
20位	不破 佑太 (京都大 2)	10.03.30

雨上がりの蒸し暑い天候のなか始まった 3000mSC。山田は前半から常に上位集団についていく強気な走りをみせ、自己ベストを大幅に更新し見事表彰台を射止めた。ここ一番での勝負強さを感じさせる素晴らしいレースであった。近藤は練習不足は否めないものの、経験を活かした落ち着いた走りで後半徐々に順位を上げて得点に絡んだ。不破は怪我あけの影響か走りに切れが見えず、不本意な結果に終わった。(中村)



勝負強さを発揮し 2 位になった山田唯

## 1500m 決勝

優勝	小山 俊之 (京都大 4)	3.54.91
2位	山西 大貴 (神戸大 4)	3.55.35
3位	横津 琢磨 (びわ学大 2)	3.56.32

暑さが引き、調度良い気候の中行われた 1500m 決勝には、予選を勝ち抜いた小山俊之が出場した。序盤小山は 3 位の位置でリラックスした走りで行く。ラスト 500~400m の地点で勝負かけ、ラスト 1 周の鐘と共に先頭に飛び出した小山。そのまま持ち前のスピードで後続を引き離し得意種目の 1500m での優勝を手にし、強さを見せ付けた。先日のハーフでの 2 位、5000m での優勝に引き続き 1500m でも優勝ということで、1 部昇格を目指すチームに弾みをつけた。(水元)

## 女子 4×400mR 予選 (3組 2着+2)

釜谷美翔子 - 加奈山憲代 - 富田夏希 - 岩橋優

3組 4着 4.06.59 **蒼穹新**

午前中出ていた日が陰り、肌寒くなった曇り空のもと、女子 4×400mR の予選が行われた。新入生の釜谷を加えた新メンバーでの初レース。それぞれのベストタイムで走れば蒼穹新記録を狙えると意気込んでいた。1 走釜谷は遅れをとりながらも粘り強い走りを見せ、まずまずの滑り出し。5 位で 1 走加奈山に渡り、離されまいと力強い走

りでつないだ。そのまま3走富田に渡り、安定した走りです。若干詰めたところで4走岩橋。後半で前の選手との差をぐんぐん詰め、最後紙一重の差で追い抜き組4着となった。タイムは見事蒼穹新記録。(伊藤慶紗)

### 4×400mR 予選 (3組2着+2)

長谷川 聡 - 萩生 翔大 - 藤崎 淳 - 大橋 正義  
2組2着通過 3.20.99

1走の長谷川はアウトレーンのスタートで感覚がつかめなかったのか序盤は抑え気味で入った。周りと同様に終盤は持ち直し、課題であったバトンパスも上手いき萩生にバトンが渡った。萩生は序盤こそやや出遅れたが、中盤からのギアチェンジで集団から抜け出し2位で藤崎につないだ。3走藤崎は後ろから2人に追いつかれて集団となるが、熟練された走りです。終盤は持ち直し2位を維持してアンカー大橋につないだ。大橋は体が動いていてテンポの良い走りです。1位をも捕えるかという走りを見せてくれた。最終的に組2着でフィニッシュし決勝へと駒を進めた。(桐山)

### 走幅跳決勝

1位 吉村 宏基 (摂南大2) 7.45(+0.3)  
2位 三原 将太 (太成学院大2) 7.08(+1.6)  
3位 今井 俊彰 (大阪市立大M1) 6.93(+0.8)  
9位 秋元 一志 (京都大3) 6.69(+0.7)  
秋元[6.68(+0.7)-6.69(+0.7)-×]

男子走幅跳に登場したのは、昇り調子の秋元。1本目から良い出だしを見せ、ベストまであと一歩という跳躍を見せる。2本目もわずかながら記録を伸ばし3本目の跳躍に期待がかかる。そして3本目に更なる飛躍を期す…も僅かにファールとなってしまった。それでもまだ入賞圏内。7番手に付け得点の期待がかかるころであったが、その後2人に記録を越えられ、ギリギリのところに入賞圏外へと押し出されてしまった。(四辻)

### 円盤投決勝

1位 南部 祐斗 (びわスポ大3) 43.17  
2位 B.ドグラス (関西外語大2) 40.58  
3位 松場 靖生 (和歌山大2) 40.28  
11位 林 翔太 (京都大3) 34.87  
15位 矢川 勝太 (京都大3) 32.34

林[33.50-34.87-×]  
矢川[31.17-×-32.34]

どんよりとした曇り空の下、男子円盤投決勝に矢川、林が出場した。矢川は1投目は納得いく投げができず、2投目はファウル。期待をかけた3投目、記録を伸ばすも、残念ながらベストエイトには残れなかった。一方、林は1投目から記録を着実に残す。そして3投目、渾身の投げを見せたが、惜しくもファウル。ベストエイトにわずかに届かなかった。2人ともベストなら勝負できるレベルであっただけに悔しい結果となってしまった。この悔しさをバネに今後の対校戦では爆発してほしい。(清水)

### 対校得点(4日目終了時点)

1位 びわスポ大 112点  
2位 摂南大 69点  
3位 京都大 62点

第5日目 5月17日(日)

西京極陸上競技場

### 女子400mH 予選 (4組1着+4)

釜谷美翔子(1) 1組6着 68.06 ♪蒼穹新

この種目京大初出場となるのは、昨年高校総体に出場し62秒台の記録をもつ釜谷。400mのベストタイムも58秒台をもち「走力でカバーするタイプ」と自己を表現していたが、受験のブランクと今大会3レース目で疲労も心配された。タイムは満足とは程遠いが、「(ハードリングという)課題が見えた」と前向きに捉えていた。関西インカレという大舞台で貴重な経験を得た釜谷の今後に期待したい。(岩橋)

### 400mH 予選 (3組2着+2)

大橋 正義(3) 3組3着 55.57 PB

前半の5台目までは、いい流れできていた。しかし6台目で歩数をきりかえようとしたのか、合わなかったのか、ハードリング直前で少しスピードが落ちたように見えた。しかしそこから持ち直

し、ホームストレートに入ってから失速もなく自己ベストを1秒更新し、55秒台に突入した。それでも今回は惜しくも決勝進出を逃したが、今後の対校戦では必ずや得点を取ってくれるであろう。(橋本)

### 200m 準決勝 (2組3着+2)

吉田 繁治(4) 1組1着通過 21.80(+1.0)

予選で自己ベストを出し好調の吉田が準決勝に臨んだ。競技前まではやや向かい風が吹いていたが、吉田の組は追い風となり、それを活かしてスタートから他を圧倒する加速を見せ、ストレートに入った時点で一気に先頭にたつ。残りの100mも先頭を譲らず力強い中間疾走を見せフィニッシュ。21"80と再び自己ベストを叩き出し、決勝へトップ通過を果たした。(藤澤)



京大の大黒柱、小山俊之

### 10000m 決勝

1位	宮永 大輔 (大阪経済大 4)	30.52.18
2位	小山 俊之 (京都大 4)	31.17.06
3位	山西 大貴 (神戸大 4)	31.19.72
8位	櫻井 研吾 (京都大 M1)	32.24.34
21位	柿本 悠貴 (京都大 4)	34.07.25

スタートとともに大経大の選手がトップに立つが、京大の3選手は慎重なペースを守る。まず小山が第2集団を引っ張り、櫻井と柿本は前の集団からこぼれた選手を捉えてゆく。櫻井は粘りで入賞を果たしたが、柿本は練習不足がたたわり悔しい結果となってしまった。暑さのため全体的にスローペースで棄権者も出る中、6000m過ぎで小山の第2集団が崩れる。ラストで2位争いは神戸大の選手との一騎打ちとなるがやはりラストのスパートは圧巻であった。残酷なまでのスピードで少し早めに仕掛けられてついた差も一気にひっくり返し、10000mでも2位となった。なんと小山は今大会1人で実に30点を獲得した。結果として小山と櫻井が点を獲得したが、今回不振だった柿本は、七大戦へ向けて努力を積みたい、と語った。(阿部)

### 200m 決勝

優勝	吉田 繁治 (京都大 4)	21.68 PB⑦
2位	真砂 秀至 (摂南大 2)	21.70
3位	向井 大志 (佛教大 1)	21.83

予選からの自己新連発で一層高得点の期待が高まる200m決勝。強い南風が吹き込んだためバックストレートを使用して行われた。予選同様素晴らしいスタートで飛び出すとカーブを出たところでアウトレーンの摂南をかわしトップに立つ。直線ではやや追い込まれながらも粘って摂南の追撃を振り切り見事トップでゴールに飛び込んだ。大会終盤でのこの大量得点。ゴールした吉田のガッツポーズが出た瞬間、スタンドが大きく沸き上がった。(天ヶ瀬)



四継と200mの二冠を達成した吉田

## 4×400mR 決勝

1位	びわスポ大	3. 13. 05
2位	甲南大	3. 16. 99
3位	摂南大	3. 17. 14
7位	京都大	3. 18. 68

[藤崎淳・萩生翔大・大橋正義・佐藤翔士]

1走の藤崎は8レーンのスタート、バックでひとつ内側の選手に捕らえられたが終盤は持ち直し萩生にバトンが渡った。萩生は持ち前の力強い走りでの前の集団に食らいつき終盤はやや力みが見られたが5位で大橋につないだ。3走大橋は400mHの疲れからか動きが固かったが安定した走りでの6位でアンカーにつないだ。アンカーの佐藤は病み上がりからか最後の粘りは見られなかったが大健闘の走りで最終的に7位でフィニッシュした。(桐山)

## 棒高跳決勝

1位	杉森 史智 (摂南大1)	5. 01
2位	金子 尚弘 (摂南大1)	4. 80
3位	辻 篤志 (関西外語大3)	4. 80
4位	秋元 一志 (京都大3)	4. 60
6位	田中 皓介 (京都大3)	4. 40
	小西 康晴 (京都大4)	NM

他大のレベルも高く、なかなかの苦戦を強いられた棒高跳び。まずは先陣の小西。4mの2本目で足をすりかけ、それでも3本目を頑張ったものの、悔しい結果に終わった。次に田中。4m40は順当にクリア。4m60は1回目も2回目も寸でところで失敗だったので、自己ベスト更新なるかと思われたが、3回目も同じく寸でところで失敗に終わった。最後は秋元。4m60はさすがといったところで素晴らしい跳躍でクリア。しかし4m80はまだ厳しいようであった。しかし3選手とも今回のような記録で終わる選手ではないので今後に期待である。(堀田)

## 走高跳決勝

1位	門田 拓也 (びわスポ大3)	2. 08
2位	片平 大地 (摂南大3)	2. 05
3位	田中 英和 (大阪府立大1)	2. 00
	巳波 壮馬 (京都大4)	NM

走高跳には巳波が出場した。いきなり自己ベ

スを越える1m85からの試技となった。練習跳躍では1m80をクリアし、大舞台でのベスト更新に期待がかかったが1本目は失敗してしまう。そして2本目、軽快な助走から軽やかにバーを越えた、と誰もが思った瞬間わずかに接触してバーを落としてしまう。3本目も力んでしまったのか成功させることができず、あえなくNMという結果になった。調子はよかっただけに本人もかなり悔しがっていたが、待望のベスト、そして七大戦の得点圏まであと一歩のところまでできている。(小長谷)

## 女子やり投決勝

1位	助永 仁美 (大阪体育大4)	52. 50
2位	稲岡 真依 (大阪体育大3)	50. 37
3位	吉見明日香 (同志社大1)	49. 69
23位	加奈山憲代 (京都大2)	30. 33 PB④
	加奈山	[24. 52-30. 33-27. 33]

午前中にも関わらず照りつける強い日差しの中、女子やり投の競技が始まった。1、3投目はやりが真っ直ぐに飛ばず、あまり記録が伸びなかったが2投目は真っ直ぐ綺麗に飛んで30m越えを達成。大幅に自己ベストを更新した。助走のラストのスピードを上げることを気をつけたという加奈山。2投目で上手く助走が出来たことがベストにつながったようだ。それでもまだスピードを上げる必要がある、と慢心することなく次の課題を見据える加奈山にはこれからも期待したい。(伊藤慶紗)

## やり投決勝

1位	村田 英俊 (大阪産業大4)	70. 42 NGR
2位	北川金太郎 (摂南大3)	67. 01
3位	水谷 友彦 (摂南大4)	64. 25
6位	林 翔太 (京都大3)	57. 43 PB

5月とは思えないほどの暑さの中、やり投には林が出場。練習投からベスト更新を予感させる55mあたりの投擲を見せ、その期待通り1投目から自己ベストをマーク、8位入賞を確信する。その後2投は集中を欠くも、後半3投が始まるまでに集中力を高め、4、5投目には55mを越える力強い投げを見せた。終わってみれば55m越えの投擲が3本と、目標とする60mへの1つのステップとしてこれからの繋がる充実した試合内容となった。(川島)

平成22年度新入生名簿

名前	学部	出身高校 (都道府県)	パート	種目・高校ベスト
男子				
荒木 伸哉	工	水戸第一 (茨城)	長	3000mSC 9' 54" 29
神谷 諒介	経済	東海 (愛知)	短	100m 11" 13 200m 22" 70
木原 亮	理	北野 (大阪)	中	800m 1' 58" 99
栗林 佳一	工	三国丘 (大阪)	短	110mH 14" 89
近藤 勇太	医	基町 (広島)	短	100m 12" 04 400mH 59" 40
志波 陽介	農	佐賀西 (佐賀)	中	800m 1' 58" 04
神野 洋介	工	奈良 (奈良)	短	100m 11" 62 200m 23" 52
多田 稜平	工	天王寺 (大阪)	長	
巽 浩之	工	寝屋川 (大阪)	跳	走幅跳 6m37
塚原 和明	法	敦賀 (福井)	短	100m 10" 93 200m 22" 16
西田 昌弘	農	金沢二水 (石川)	長	5000mW 23' 45
西村 優汰	工	西京 (京都)	跳	走幅跳 7m52 三段跳 14m58
花岡 洋祐	短	岡山操山 (岡山)	短	100m 11" 46 200m 22" 63 400m 49" 98
林 真幸	経済	洛星 (京都)	短	100m 12" 07
久好 哲郎	農	北野 (大阪)	長	1500m 4' 06" 32 5000m 15' 24 10000m 31' 37
平井 幹	工	関西大倉 (大阪)	長	5000m 15' 26
堀江 一司	工	堀川 (京都)	短	400m 52" 76
牧川 真央	工	大教大池田 (大阪)	短	100m 10" 78
水上 裕介	工	武生 (福井)	短	100m 10" 96 200m 22" 21
水谷 浩人	工	四日市 (三重)	中	800m 2' 01" 07 1500m 4' 13" 44
宮原 涼	経済	三国丘 (大阪)	長	5000m 15' 54
森 裕貴	工	天王寺 (大阪)	短	400m 48" 79
山崎 英治	総人	星光 (大阪)	短	400m 49" 77
山口 昌太	総人	北野 (大阪)	長	
横山 高広	農	掛川西 (静岡)	中	400m 50" 61 800m 1' 57" 27
横山 裕樹	工	開明 (大阪)	長	
渡邊 健紀	農	仙台第二 (宮城)	長	5000m 16' 18
女子				
梅田 早織	理	ノートルダム清心 (広島)	短	
釜谷美翔子	医	高岡 (富山)	短	400m 58" 57 400mH 62" 91
高橋 美紀	法	宮城第一 (宮城)	マネ	

中川 真歩	京女	四天王寺 (大阪)	マネ	
増本 梨奈	法	畝傍 (奈良)	短	
三村 有葉	医	高田 (三重)	長	800m 2' 35    1500m 5' 24 3000m 11' 40
院 生				
中村 幸平	人間環境学研究科	慶応義塾大学	長	10000mW 46' 40" 04



---

蒼穹ニュース 平成22年度 第2号  
平成22年5月25日 発行

---

発行所：京都大学体育会陸上競技部  
編集者：飯村大智・高田裕人・藤澤健斗（副務）  
特別協力：鈴木大河・宿院 享（学連員）  
内田健弥（記録係）・秋元一志（HP 係）  
写真担当：河本聡・永田和寛・長谷川聡

---

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>  
ミラーサイト <http://tandfkyoto.web.fc2.com/>  
陸上競技部記録 HP <http://tandfkyoto.web.fc2.com/kiroku/index.htm>  
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/icaak/index.htm>  
メールアドレス [fujisawa0923@gmail.com](mailto:fujisawa0923@gmail.com)（藤澤）



